

令和4（2022）年さいたま市における
火災・救急・救助統計（概数）

さいたま市消防局

目 次

	頁
【火災発生状況】	
1 火災件数について	1
2 焼損床面積及び火災損害について	2
3 死傷者について	3
4 住宅火災について	3
5 出火原因について	4
6 行政区別の火災発生件数について	4
7 月別の火災発生状況について	5
【救急出場状況】	
1 救急出場件数について	6
2 月別の救急出場件数について	6
3 事故種別ごとの救急出場件数について	7
4 救急搬送人員について	7
5 初診時の程度別について	8
【救助出場状況】	
1 救助出場件数について	9
2 事故種別ごとの救助出場件数について	10
3 活動件数について	11
4 救助人員について	12

令和4年火災発生状況(概数)

1 火災件数について

火災件数は306件、前年より6件増加

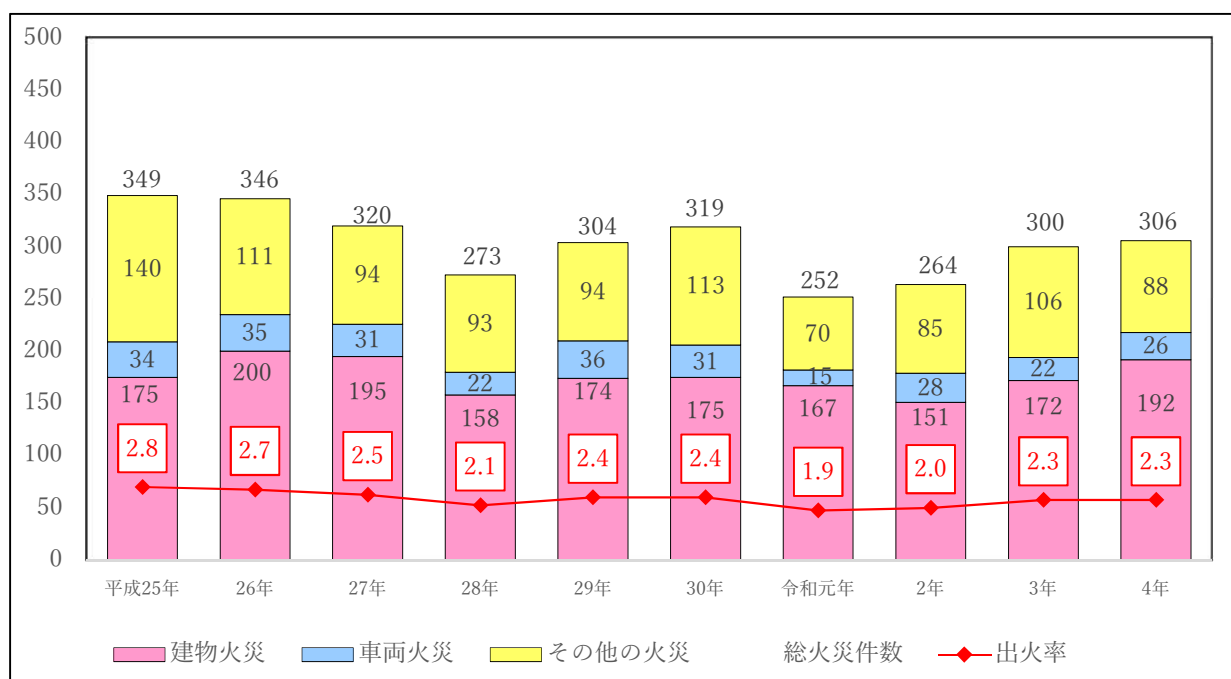
令和4年の火災件数は306件で、前年より6件増加（2.0%）となっています。

火災件数を火災種別で前年と比較すると、建物火災は192件で21件増加（12.3%）、車両火災は26件で5件増加（23.8%）、その他の火災は88件で20件減少（-18.5%）となり、その他の火災は減少していますが、建物火災と車両火災は増加しています。

【火災件数】

		令和4年	令和3年	前年比	増減率
火 災 件 数	火災総件数	306	300	6	2.0
	建物火災	192	171	21	12.3
	住宅火災	128	105	23	21.9
	車両火災	26	21	5	23.8
	その他の火災	88	108	-20	-18.5

【過去10年の火災件数の推移】



2 火災に伴う損害状況について

焼損棟数、焼損床面積及び火災損害は増加

火災により焼損した建物は289棟で、前年より59棟増加（25.7%）となっています。

焼損床面積は7,440㎡で、前年より4,448㎡増加（148.7%）となっています。

り災世帯は227世帯456人で、前年より31世帯増加（15.8%）し、り災人員は、前年より10人減少（-2.1%）となっています。

損害額は3億7,991万5千円で、前年より4,754万4千円増加（14.3%）となっています。

【火災に伴う損害状況】

		令和4年	令和3年	前年比	増減率
焼 損 棟 数	計(棟)	289	230	59	25.7
	全 焼	50	27	23	85.2
	半 焼	11	8	3	37.5
	部分焼	71	53	18	34.0
	ぼ や	157	142	15	10.6
り 災 世 帯	計(世帯)	227	196	31	15.8
	全 損	48	35	13	37.1
	半 損	17	4	13	325.0
	小 損	162	157	5	3.2
り災人員(人)		456	466	-10	-2.1
焼損床面積(㎡)		7,440	2,992	4,448	148.7
焼損表面積(㎡)		696	831	-135	-16.2
損害額(千円)		379,915	332,371	47,544	14.3

3 死傷者について

死傷者数は死者6人、前年より5人減少、負傷者52人、前年より7人増加

火災による死者は6人で、前年より5人減少（-45.5%）となり、火災による65歳以上の高齢者の死者は6人で、前年より2人増加（50.0%）、火災による負傷者は52人で、前年より7人増加（15.6%）となっています。

4 住宅火災について

住宅火災による死傷者数は、死者6人、負傷者39人

住宅（一般住宅、共同住宅及び併用住宅）火災は128件で前年より23件増加しており、住宅火災による死者は6人で、前年と同数となっています。

死者が発生した住宅火災では、住宅用火災警報器が未設置の住宅又は維持管理が不適切な住宅で死者が発生しています。

住宅火災による負傷者は39人で、前年より2人増加となっています。

負傷者が発生した住宅火災では、負傷者の多くが初期消火中や避難中にやけどをしたり、煙を吸ったことにより負傷しています。

【火災による死傷者】

	令和4年		令和3年		前年比		増減率
	数	割合	数	割合	数	割合	
死者〔放火自殺等〕(人)	6	[0]	11	[7]	-5	[-7]	-45.5
住宅火災〔自殺〕	6	[0]	6	[2]	0	[-2]	0.0
65歳以上〔住宅火災〕	6	[6]	4	[3]	2	[3]	50.0
負傷者〔30日死者〕(人)	52	[2]	45	[1]	7	[1]	15.6
住宅火災	39		37		2		5.4
65歳以上〔住宅火災〕	17	[17]	14	[13]	3	[4]	21.4

5 出火原因について

出火原因の第1位は「放火（疑い含む）」、続いて「たばこ」、「こんろ」、「配線器具」、「電気機器」

出火件数306件を出火原因別にみると、「放火（疑いを含む）」53件（全火災の17.3%）、「たばこ」43件（同14.1%）、「こんろ」30件（同9.8%）、、「配線器具」28件（同9.2%）、「電気機器」21件（同6.9%）の順となっています。

出火原因の1位「放火（疑いを含む）」、2位「たばこ」及び3位「こんろ」の順位は変動がなく、電気関係の火災が増加しています。

【出火原因上位5項目】

順位	出火原因	令和4年	令和3年	前年比
1	放火(疑い含む)	53	74	-21
2	たばこ	43	40	3
3	こんろ	30	23	7
4	配線器具	28	21	7
5	電気機器	21	14	7

6 行政区別の火災発生件数について

行政区別の火災発生件数の順位は、岩槻区47件、続いて緑区38件

行政区別の火災発生状況を見ると、火災が最も多い行政区は岩槻区の47件で、続いて緑区の38件、大宮区の35件の順となっています。

一方、火災が最も少ない行政区は中央区の16件で、続いて桜区の20件となっています。

【行政区別火災件数】

	令和4年	令和3年	前年比	増減率
合計	306	300	6	2.0
西区	32	29	3	10.3
北区	27	25	2	8.0
大宮区	35	28	7	25.0
見沼区	32	34	-2	-5.9
中央区	16	25	-9	-36.0
桜区	20	20	0	0.0
浦和区	34	28	6	21.4
南区	25	30	-5	-16.7
緑区	38	37	1	2.7
岩槻区	47	44	3	6.8

7 月別の火災発生状況について

月別の火災発生件数は、12月が37件と最も多く発生し、続いて1月～3月が各32件となっています。前年との増減率では、8月が133.3%で最も多くなっています。

火災を四季別にみると、最も多いのは冬季（12月～2月）の101件で、全火災の33.0%を占めており、続いて春季（3月～5月）の78件で、全火災の25.5%を占めています。

【月別火災件数】

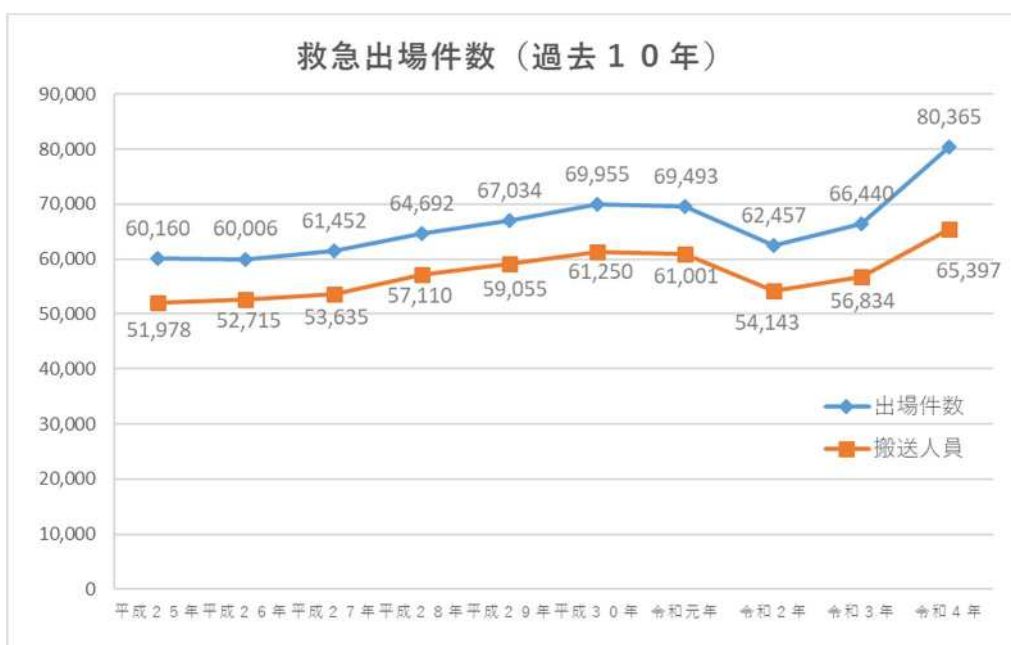
	令和4年	令和3年	前年比	増減率
合計	306	300	6	2.0
1月	32	40	-8	-20.0
2月	32	36	-4	-11.1
3月	32	31	1	3.2
4月	22	28	-6	-21.4
5月	24	14	10	71.4
6月	24	26	-2	-7.7
7月	14	24	-10	-41.7
8月	28	12	16	133.3
9月	16	16	0	0.0
10月	20	14	6	42.9
11月	25	27	-2	-7.4
12月	37	32	5	15.6

令和4年救急出場状況（概数）

1 救急出場件数について

救急出場件数は80,365件、前年より13,925件増加

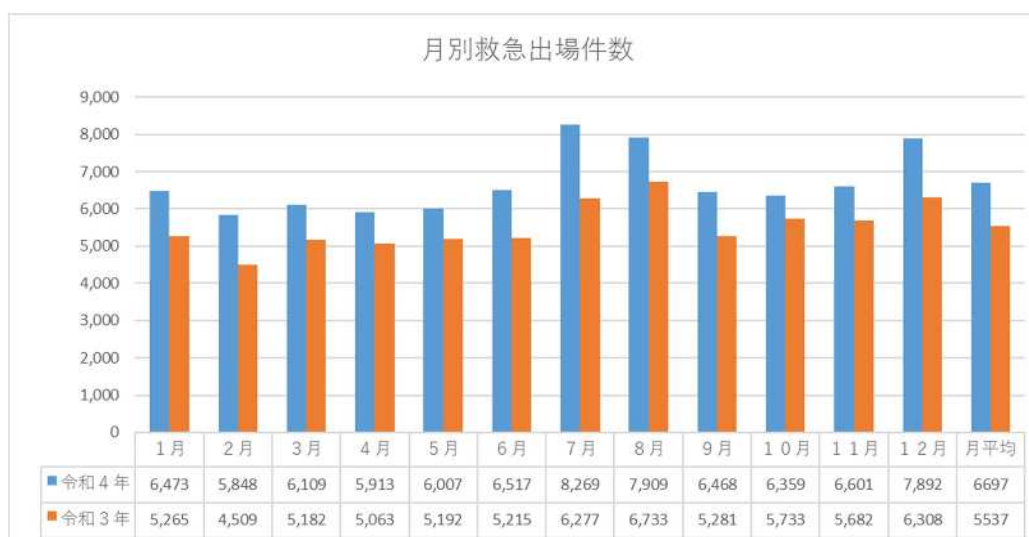
令和4年中の救急出場件数は80,365件で、前年より13,925件増加し、
 出場件数は約21%の増加となりました。



2 月別の救急出場件数について

月別の救急出場件数は、前年より月平均で1,160件増加

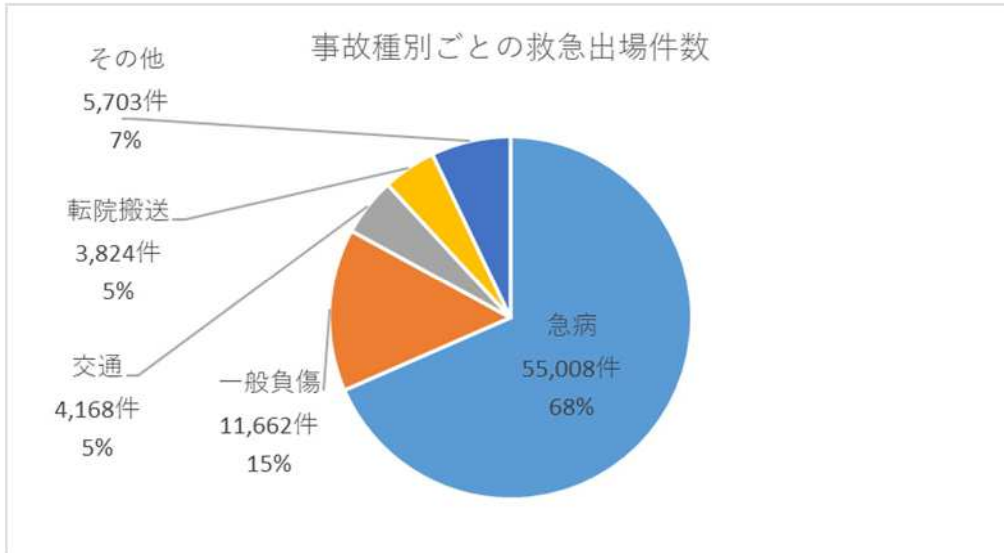
令和4年中の月別救急出場件数は、前年より月平均で1,160件増加しました。
 いずれの月も前年より増加しています。



3 事故種別ごとの救急出場件数について

最多は「急病」、続けて「一般負傷」、「交通事故」

事故種別ごとの救急出場件数で最も多いのは「急病」で55,008件（前年より11,326件増加）、次に「一般負傷」で11,662件（前年より1,756件増加）、「交通事故」4,168件（前年より105件増加）の順となっています。

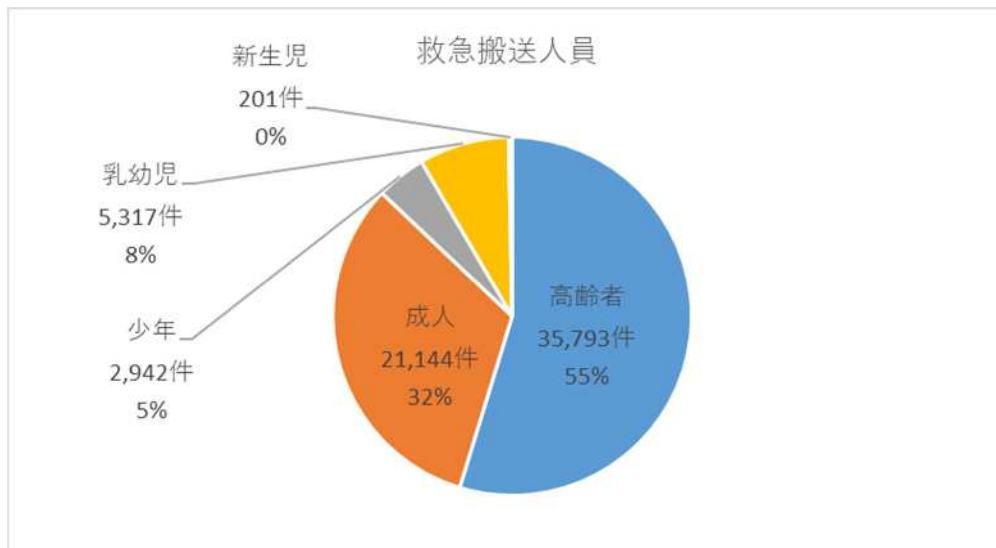


4 救急搬送人員について

救急搬送人員は65,397人、前年より8,563人増加

令和4年中の救急搬送人員は65,397人で、前年より8,563人増加し、出場件数の増加に伴って救急搬送人員も増加しています。

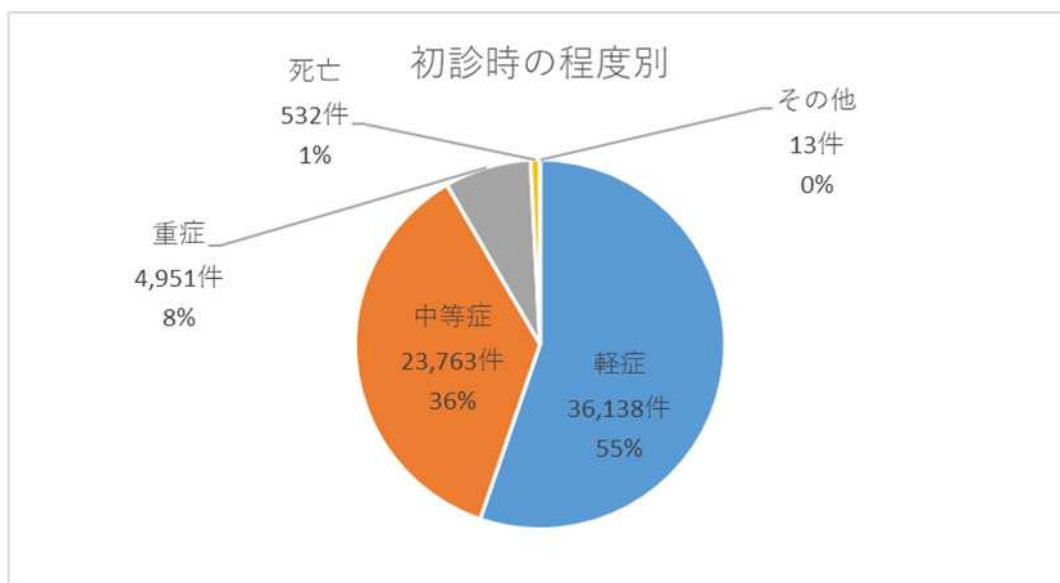
年齢区分別の救急搬送人員は、新生児（生後28日未満）が201人、乳幼児（生後28日以上7歳未満）が5,317人、少年（7歳以上18歳未満）が2,942人、成人（18歳以上65歳未満）が21,144人、高齢者（65歳以上）が35,793人となっています。



5 初診時の程度別について

軽症は36,138人(全体の約55%)、重症は4,951人(全体の約8%)

医師による初診時の程度別では、軽症(入院を要しないもの)が36,138人、中等症(生命の危険はないが入院を要するもの)が23,763人、重症(生命の危険の可能性があるもの)が4,951人、死亡が532人、その他が13人となっています。



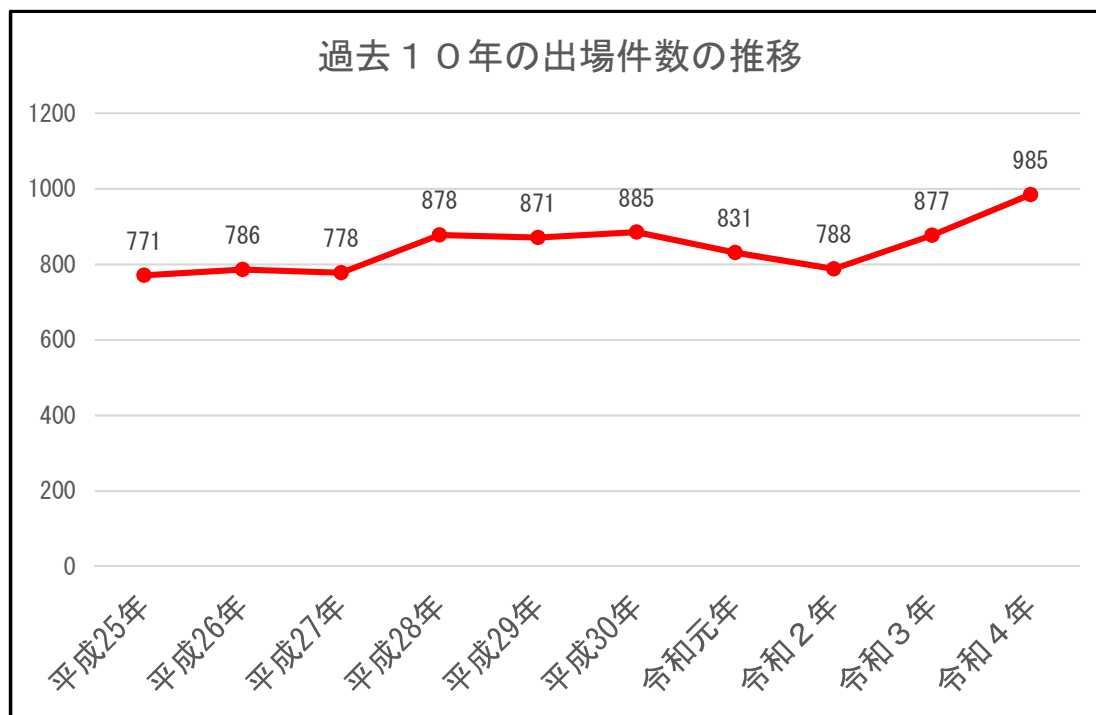
令和4年救助出場状況（概数）

1 救助出場件数について

救助出場件数は、前年に比べて増加

令和4年中の救助出場件数は985件で、前年より108件増加しています。

また、前年と比較すると、「火災」、「風水害等自然災害事故」、「機械による事故」、「建物等による事故」及び「ガス及び酸欠事故」の件数が増加となっています。

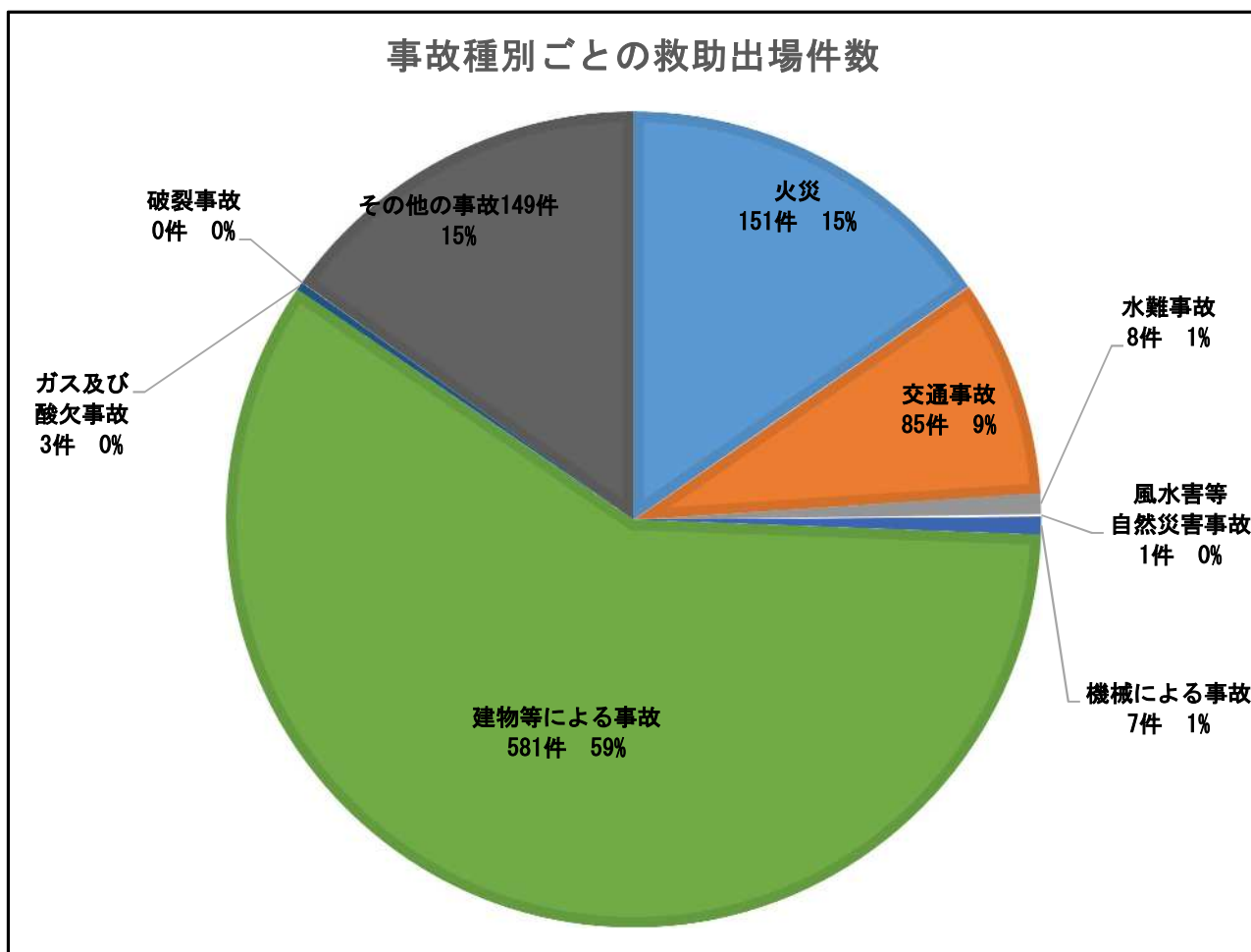


		令和4年 (速報値)	令和3年 (確定値)	前年増減	増減率	
救助 出場 件数	合計	985	877	108	12.3	
	事故 種別	火災	151	135	16	11.9
		交通事故	85	99	-14	-14.1
		水難事故	8	12	-4	-33.3
		風水害等自然災害事故	1	0	1	
		機械による事故	7	5	2	40.0
		建物等による事故	581	472	109	23.1
		ガス及び酸欠事故	3	2	1	50.0
		破裂事故	0	0	0	
		その他の事故	149	152	-3	-2.0
活動件数	645	541	104	19.2		
救助人員	413	364	49	13.5		

2 事故種別ごとの救助出場件数について

令和4年中の救助出場件数のうち最も多い事故種別は「建物等による事故」581件、次いで「火災」151件、「交通事故」85件となっています。

また、「建物等による事故」は、過去10年の事故種別ごとの出場件数において、平成25年から令和4年までの中で、最多となっています。



【過去10年の事故種別ごとの救助出場件数】

	合計	事故種別									前年増減	前年比(%)
		火災	交通事故	水難事故	風水害等自然災害事故	機械による事故	建物等による事故	ガス及び酸欠事故	破裂事故	その他の事故		
平成25年	771	166	126	21	7	6	257	0	0	188	95	14.1
平成26年	786	167	105	18	3	11	281	1	0	200	15	1.9
平成27年	778	167	93	13	10	16	302	0	0	177	-8	-1
平成28年	878	124	96	24	2	11	371	0	0	250	100	12.9
平成29年	871	152	92	15	8	10	357	0	0	237	-7	-0.8
平成30年	885	147	101	15	3	14	444	0	0	161	14	1.6
令和元年	831	113	91	19	19	13	423	0	0	153	-54	-6.1
令和2年	788	119	78	16	1	3	420	5	0	146	-43	-5.2
令和3年	877	135	99	12	0	5	472	2	0	152	89	11.3
令和4年	985	151	85	8	1	7	581	3	0	149	108	12.3

3 活動件数について

活動件数は、前年と比べ増加

令和4年中の救助活動件数は、645件で前年と比べて104件（19.2%）増加し、出場件数の増加に伴い、活動件数も増加となっています。

【救助活動件数】

	令和4年 (速報値)	令和3年 (確定値)	前年増減	増減率
活動件数	645	541	104	19.2

【過去10年の救助活動件数の推移】

	活動件数	前年増減	増減率
平成25年	353	10	2.9
平成26年	377	24	6.8
平成27年	385	8	2.1
平成28年	417	32	8.3
平成29年	447	30	7.2
平成30年	527	80	17.9
令和元年	529	2	0.4
令和2年	489	-40	-7.6
令和3年	541	52	10.6
令和4年	645	104	19.2

4 救助人員について

救助人員は、前年と比べ増加

令和4年中の救助人員は、413人で前年と比べて49人（13.5%）増加し、出場件数の増加に伴い、救助人員も増加となっています。

【救助人員】

	令和4年 (速報値)	令和3年 (確定値)	前年増減	増減率
救助人員	413	364	49	13.5

【過去10年の救助人員の推移】

	救助人員	前年増減	増減率
平成25年	258	9	3.6
平成26年	308	50	19.4
平成27年	264	-44	-14.3
平成28年	300	36	13.6
平成29年	347	47	15.7
平成30年	370	23	6.6
令和元年	398	28	7.6
令和2年	303	-95	-23.9
令和3年	364	61	20.1
令和4年	413	49	13.5